

地球にECO(いーご)としよう



省エネグループ通信



夏休みのエコライフ・チャレンジ:通年型にトライ！！

来年度に向けて課題解決に邁進

夏休みのエコライフ・チャレンジは、川崎市の省エネルギー推進を目的に、省エネグループが2005年から開始した、学校を通じて夏休みに家庭で実践する省エネの活動です。省エネグループとしては活動の原点の一つで、重要な位置づけの活動です。

しかし2013年は、夏休み7日間では5年生755人が、チャレンジするにとどまりました。2012年(958人)より減ってしまいました。このままでは年々減少の危機は免れません。そこで思い切って出前授業の実施校との打ち合わせ時に参加を働きかけると、意外にも出前授業の学習効果と結びつくということで、12月現在563人の追加参加が得られました。出前授業の学習効果には気が付いてなかったのが、これからの夏エコ活動の参加者を増やすという発展に大きなヒントを得ました。

チャレンジ後の感想

「楽しかった」と、「大変だったけど楽しかった」の、合計が76%になりました。

「チャレンジ前に家族で話し合った」が、約40%にとどまりました。家庭で家族一緒にエコライフが狙いでもあるので、もっと、チャレンジ前に、家族で話し合いたいと思いました。

節電量(2012年と2013年の電気使用量の差)

参加してくれた家庭(178家庭)の節電量は、1769kWhの増加でした。(1家庭の平均値は10kWhの増加)

二酸化炭素削減

皆さんが活動してくれた7日間の一人当たりの平均は、約0.7kg-CO2でした。

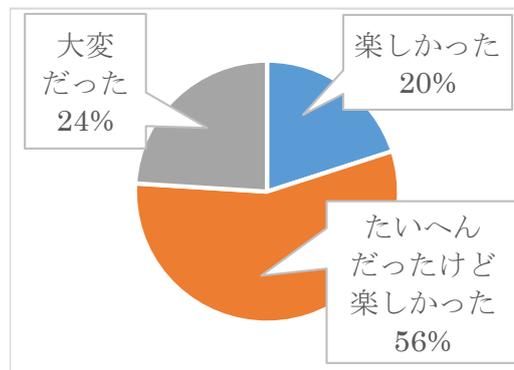
今回参加してくれた755名が一年間活動を継続すれば、約28トン-CO2(この二酸化炭素を吸収する杉の木の本数に換算すると、2,009本)という大きな成果になります。

一人一人の活動では成果は少ないですが、皆が協力して、そして継続して活動をすれば大きな力になることを示しています。夏休みのエコライフ・チャレンジは、もっともっとチャレンジャーを増やすことが早急の課題です。

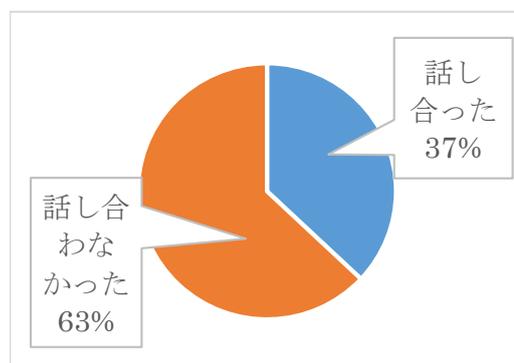
上述した出前授業実施校への提案のほか、

- 1)実施前の説明方法の改善
 - 2)実施時期の検討
 - 3)動機付けの方法
 - 4)アンケート用紙の改善
- など関係先や学校の先生方と協議して、夏エコチームで詳細な検討をして改善したいと思います。

チャレンジ後の感想



家族で話し合いましたか？

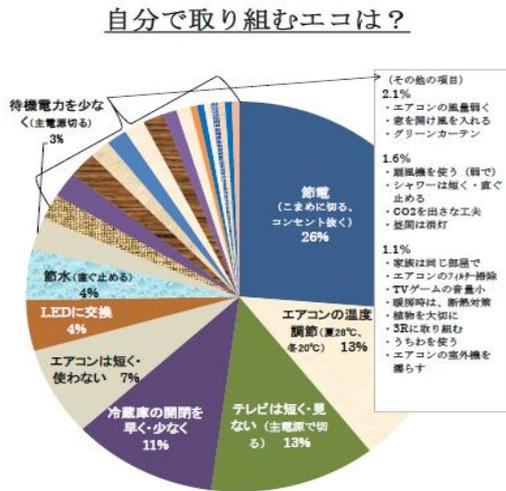


出前授業

夏休みに貴重な体験などをして来た子ども達が学校へ戻ってきた9月早々から、出前授業を再開しました。どの子ども達も、改めて勉強に取り組んでいこうと目が輝いていました。これらの子ども達と環境のことを一緒に勉強できる幸せが、そこにはありました。

9月～11月は、7校、18クラス、577名の5年生の子ども達が、「温暖化とは一見て、触れて、感じてー」、「節電にみんなで取り組もう」、「はっぱはえらい」から選んだプログラム内容で約25分間の講義、その後の約15分間の「発電体験・電気の見える化の体験」に熱心に取り組んでくれました。そして、地球温暖化の現状、エネルギーの大切さなどを理解してくれました。授業終了後の子ども達の感想は、「地球が

大変なことになるので、防ぎたい」。そこで、自分で取り組むエコの内容を具体的にたくさん考えてくれました。



町内会等への学習会

10月～11月には、自治会・町内会で環境学習会を開催。10月6日(日)に「丸子住宅管理組合」30名、10月23日(水)に「平高山自治会」の15名、台風の影響で雨の中で参加いただいた10月26日(土)に「虹ヶ丘1丁目自治会」の9名、10月31日(水)に「宮前区PPK」15名、11月5日(火)に麻生区の「かよう(火曜)会」の40名が参加されました。学習会の内容は、地球温暖化の現状、家庭の省エネ、節電は家計の節約、電気代の仕組み、マンション共用部の節電などで、参加された住民の方々は、真剣に耳を傾けて頂きました。特に、家庭の省エネの仕方や、電気料金の仕組みなどに傾き

イベント

9月に入ってから、各地で開催されるイベントにブースを構えました。今年の夏は、11月初めまで暑い日が続く異常気象でしたが、暑い中でも、ブースに訪れて頂いた市民の皆さまに、発電体験を通して省エネ・節電の大切さを理解してもらうことができました。

10月20日は、毎年出展していた「いいじゃん川崎」のご都合で実現しませんでした。代わりに川崎市役所本庁舎前の駐車場で開催される「連連つなごうかわさき」に朝早くから準備をしました。当日は朝から風雨が強く悪天候の中での開催でした。その影響で、会場を訪れる市民が少なく、昼を待って片づけて、足取り重く帰路につきました。残念でした。

11月24日に夢見ヶ崎動物公園で開催された「日吉まつり」に参加しました。今回は素晴らしい天気恵まれ、朝からたくさんの市民が訪れて忙しい一日でした。体験を通して省エネ・節電の大切さを知ってもらいました。



ながら熱心に聞いて頂いたのが、印象的でした。

同時に温暖化センター、3R推進グループが説明を担当した

ゴミの分別について、9月から全市で始まったことを受け、熱心に聞いておられました。



私のエコ体験

消費電力を3年間で半分以下に！

川崎市地球温暖化防止活動推進員

石川 潤一

■はじめに

省エネには特に意識しない生活を送っていましたが、震災を機に「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」に目覚めました。集合住宅暮らしのため、まず「省エネ」、それも節電から取り組んだ3年間でした。震災前(2010年)の半減化は2013年に達成しました。震災前は如何に浪費していたか本当によく分かりました。

■まず待機電力

震災の後、待機時消費電力(待機電力)がクローズアップされ、わが家でも計測可能な電気製品すべての待機電力を測定し、大きいものの使用廃止やプラグを抜くなどしました。

測定にはCCセンター(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)が貸し出している「ワットアワーメーター」を使用しました。わが家でのワースト4は、古い電気製品が主ですが



ワットアワーメーター

- ・液晶TV(番組表自動取得ON) 17W
- ・ミニコンポ(1995年製) 11W
- ・エアコン(1996年製) 4W
- ・ビデオデッキ(2000年頃) 2W

新しい電気製品の待機電力は1W未満と思われるのでそれ程気にすることはないでしょう。

■電力の見える化

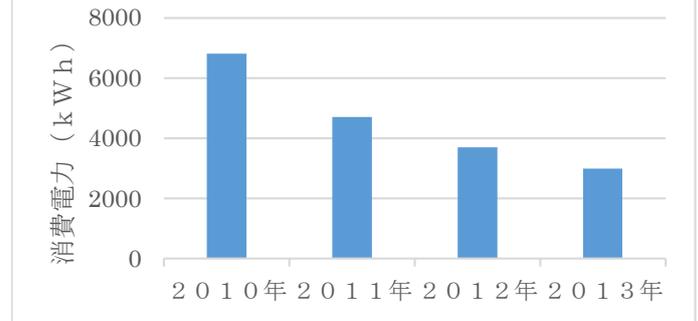
川崎市を通じてJST-LCSのモニターに応募し、2011年5月に「省エネナビ(CK-5)」を設置し、ほぼリアルタイムで家庭全体の総電力と個別3カ所(エアコン、冷蔵庫、TV)のモニタリングが可能になりました。



省エネナビ

このように「見える化装置」を導入しますと常時／日々／月ごとに使用状態が分かりますので、自然と省エネ意識が高まります。

我が家の年間消費電力 (東電検針票ベース)



■省エネの具体的方法

具体的な省エネ手段は年度別に下記のような項目です。特に目新しい内容はありません。

<2011年>

- ・「待機電力」の徹底的な削減(上記参照)
- ・「保温」をやめた(電気ポット、電気釜)
- ・常用エアコン 3台→1台(生活のコンパクト化)
- ・発熱電球4個のLED化
- ・扇風機1台追加(計2台)

<2012年>

- ・冷蔵庫(1995年製)の故障による買替え
- ・LDKの照明2カ所点灯→どちらか1カ所点灯
- ・省エネ扇風機1台追加(計3台)
- ・東側すだれ
- ・リビング直管蛍光灯4本のLED化
- ・電気コタツをやめて、

- ・小型ホットカーペット+毛布、スリッパ、セーター
- ・冬ベランダ発電で小型ホットカーペット使用
- ・豆電球(5W)4個→LED化(0.5W)
- ・外出励行(近隣のKSP等へ)

<2013年>

- ・ダイニング蛍光灯→LED化
- ・デスクトップPC2台→1台
- ・ノートPC2台→1台
- ・更なる生活のコンパクト化(和室を使わずリビングに集中)

なお、旧式冷蔵庫の買替えは大きな節電(+節約=元が取れる)と分かっていたのですが、稼働している冷蔵庫を廃却するのは抵抗がありました。その悩みの中、2012年に故障となったのは幸いでした。

川崎市における地球温暖化対策の推進

川崎市環境局地球環境推進室
北川 友明 係長

私達省エネグループでは年間2回勉強会を実施しています。前期は川崎市を中心に環境問題・省エネ問題を熱心に事業として推進する民間企業、後期は行政側から温暖化対策等の法制やそれらの取り組みを中心とする研修会を行っています。今回は11月28日に川崎市役所の北川係長による「川崎市における地球温暖化対策の推進」「環境省の関連事業の概要」を中心にした講演をお願いしました。

「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」の理念

を骨子として、地球温暖化対策の現在の目標と取り組み、来年度以降のCC川崎エコ会議等を中心とする取り組みの検討等を、又環境省関連事業では、基盤形成事業やコンソーシアム事業に私達省エネグループはいかに取り組むかの事例を交えて分りやすくお話をして頂きました。いかに私達が地域での地球温暖化防止活動に協力し、いろんな分野の方達との連携が大事か勉強になりました。



北川係長は右から2人目

IPCC、第5次評価報告書(第1作業部会)を公表!

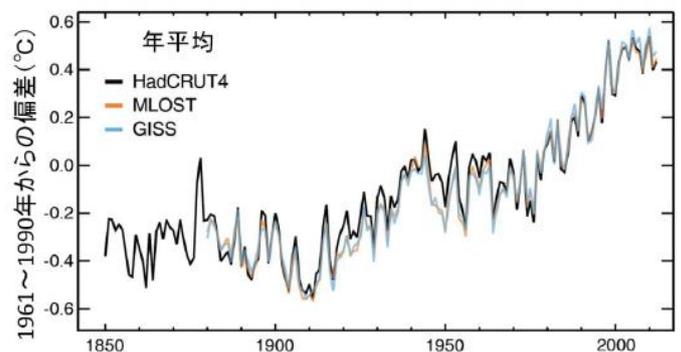
国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、第1作業部会の第5次評価報告書を6年ぶりに9月27日公表した。地球温暖化と人間活動について、第4次評価報告書同様「温暖化については疑う余地がない」とし、二酸化炭素(CO2)排出など人間活動が温暖化を招いた可能性については、一歩進んで「極めて高い(95%以上)」とした。また報告書では「ほとんどの陸域で極端な高温の頻度が増加することはほぼ確実」としている。平均気温の上昇等は以下のとおり。

(1)観測事実では、1880年～2012年において、世界の平均地上気温は0.85(0.65～1.06)°C上昇し、1971年～2010年において、海洋の上部(0～700m)では水温が上昇していることはほぼ確実である。

(2)将来予測では、1986年～2005年を基準とした2081年～2100年の平均地上気温は0.3～4.8°C、海面は0.26～0.82m上昇する可能性が高い。

(3)過去20年にわたり、グリーンランド及び南極の氷床の質量は減少しており、氷河は世界中で縮小し続けている。

世界の地上気温の経年変化



—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かっこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ

〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内

TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350

E-mail : office@kwccca.com

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者: 省エネグループ代表 八木洋一

